

多様な教育的ニーズに応じた教育実践

～知的障害のある児童生徒の質の高い学びを実践するために
必要な学習指導と評価の在り方～

千葉県立君津特別支援学校

電話 0439-55-4333

FAX 0439-55-7859



君津特別支援学校

研究のポイント

知的障害のある児童生徒の各教科等を合わせた指導における学習の内容・方法・評価について、単元記録表、評価表を用いて研究した。単元記録表では、関連する各教科等の内容の精選を行い、評価表では、児童生徒につけたい力を明確にして評価をした。併せて「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりを行い、各教科等を合わせた指導のPDCAサイクルを実践し、知的障害のある児童生徒の質の高い学びを目指した。

■学校の概要

<http://cms2.chiba-c.ed.jp/kimitsu-sh>

昭和54年に開校し、知的障害、病弱のある児童生徒を対象とした学校である。木更津市、君津市、富津市の3市を学区とし、小学部・中学部・高等部と重複障害の児童生徒で編制したみどりグループがある。高等部は、幅広い発達段階の生徒に合わせて教育課程を3つに類型化している。児童生徒数は本校254名、児童心理治療施設の児童生徒が通う上総湊分教室(小・中)16名、合計270名であり、児童生徒数が年々増加している。

■研究課題

各教科等を合わせた指導について関連する各教科等の内容の明確化と精選、評価の観点を設けて評価をすることで効果的な指導方法と評価の在り方について研究する。

■研究の目的と方法

【目的】

- 各教科等を合わせた指導のPDCAサイクルによる授業づくりにより知的障害のある児童生徒の質の高い学びを実現する。
- ・質の高い学びに向けて、各教科等を合わせた指導において単元記録表を改善・活用して、関連する各教科等の内容の精選を図る。
- ・各教科等を合わせた指導において学部間の系統性を図りながら、一人一人の児童生徒につけたい力と関連する各教科等の内容を踏まえた評価の在り方を探る。

【方法】

- ・単元記録表を用いて、単元目標を3観点で立て、学習活動から関連する各教科等の内容を書き出し、学習活動や手立ての見直しを図る。
- ・児童生徒につけたい力を明確にした評価表を作成し、児童生徒の実態把握・変容を記録・評価し、授業づくりや教材教具の改善に生かす。
- ・授業研究では、児童生徒の深い学びにつながる振り返りの在り方を探りながら、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりを行う。

■研究概要

【実践と成果】

・単元記録表の活用

授業者間で単元記録表をもとに、単元について話し合い、関連する各教科等の内容を明確にし、目標や活動内容・具体的な支援について共通理解を図ったり、アイデアを出し合ったりして授業づくりができた。単元終了後に評価をして、次単元の改善につなげ、PDCAサイクルを実現することができた。併せて、関連する各教科等の内容の精選や整理のために各教科等内容表を作成した。

・評価表の活用

小学部・中学部・高等部はアセスメントシートを作成し、様式を揃えることで学部間の系統性をもつことができた。みどりグループは行動記録評価表を作成した。評価表をもとに教師間で話し合うことで児童生徒の理解が深まり、目標・支援・評価がより実態に沿い、具体的な手立てを講じることができた。

※みどりグループとは、知的障害と肢体不自由を併せ有する重複学級のことであり、小学部・中学部・高等部で系統性をもった教育課程を編成している。

・授業研究

全体研修会で「主体的・対話的で深い学び」「質の高い学び」について講義を受け、本校で考える「主体的・対話的で深い学び」の視点を明確にして、授業づくりを行った。授業の中に振り返りの時間を設けることで、児童生徒の深い学びにつなげることができた。

○単元記録表、評価表、「主体的・対話的で深い学び」の視点というツールを活用しての実践により、教師の意識が変容（関連する各教科等の内容の視点、3観点からの目標設定・評価、主体的・対話的で深い学びの視点から学習活動や児童生徒を捉える）したことが児童生徒の質の高い学びにつながった。

【課題と今後に向けて】

・単元記録表では、幅広い発達段階や実態差のある児童生徒に対し、関連する各教科等の内容の書き出しや評価が難しい。

⇒各教科の見方・考え方について理解を深め、その視点から関連する各教科等を捉え直す。

・評価表では、単元ごとに目標・手立て・評価を明確にすることができたが、1年後、2年後…というPDCAサイクルを実践するまでに至らなかった。

⇒各教科等内容表を活用し、児童生徒の12年間の学びの系統性や何を学んだのかが明確にできるようにしていく。

・授業研究では、一人一人の実態に合った評価、自分が認められたことが分かる評価の在り方を考える必要があること、教師の支援の質が高くないと児童生徒の深い学びを奪ってしまうことが挙げられた。

⇒発達段階に応じた振り返りの工夫、これまでの支援方法を見直し、児童生徒が考えて行動できる状況づくりをしていく。